

体育心理学専門領域・日本スポーツ心理学会統合検討ワーキンググループ報告**両団体の沿革**

体育心理学専門領域は日本体育学会の一分科会として1967年に発足し、体育学の主領域の1つとして今日までの発展を遂げてきました。会員数は2018年6月12日現在で633名を数えます。

一方、日本スポーツ心理学会は1973年に発足し、国際スポーツ心理学会(International Society of Sport Psychology)との緊密な連携のもとで今日まで発展し、2018年6月12日現在の会員数は800名です。

社会状況の変化

このように、それぞれの歴史的経緯のもとで今日まで大きく発展してきた両学会ですが、これらを取りまく現代の日本社会は大きな転換期を迎えようとしています。両学会の発足当初に高度成長期を迎えていた我が国は、バブル景気とその崩壊を経て少子高齢化の時代を迎えています。18歳人口の減少とともに大学の連携・統合が進行していることから、将来的に大学数とともに大学教員数が減少し、さらに両学会の会員数が減少していく可能性が高いといえます。また、大学教員を取りまく環境が変化し、研究・教育以外の業務量がますます増大しつつあります。加えて、両分野において研究の細分化が進んでおり、そのことが研究者間の相互交流を阻む一要因となっています。

ワーキンググループの発足

歴史的経緯を異にする両学会ですが、いずれも体育およびスポーツという密接に関連した領域の心理学的側面を研究するという点において共通しています。また、現時点(2018年6月12日現在)において372名の会員が体育心理学専門領域とスポーツ心理学会の両方に所属しています。加えて、2018年度において両学会では5名の役員が重複しています(体育心理学専門領域5/13名、スポーツ心理学会5/18名)。

このような状況のもとで、体育・スポーツ心理学領域の今後の維持発展を目指すためには、研究における上位の理念を共有し、互いの組織を統合するという選択肢が考えられます。そこで2017年度体育心理学専門領域総会において、両理事会での話し合いの場を設け、統合案の是非や具体的内容について検討を開始していくことについて審議し、このことが承認されました。これを受けて2018年3月に体育心理学専門領域およびスポーツ心理学の合同理事会が開催され、統合検討ワーキンググループの設置が承認され、現在まで3回のワーキンググループ会議が開催されました。

ワーキンググループでの議論内容

その中で、主に下記の点に関する議論を進めています。現在までの統合イメージは添付図のとおりです。

- ・ 統合した場合の名称、組織、会則、会費設定、入会資格、被選挙権等について
- ・ 重複業務の一本化について
- ・ 学会企画の多様化、充実化について

【資料3】

- ・ 学会認定資格(スポーツメンタルトレーニング指導士)の位置づけについて
- ・ 以上の議論を踏まえた統合による両学会のメリット・デメリットの明確化

最終的には統合によるメリットおよびデメリットを明示したうえで両会員各位の判断を総合して統合の可否を決定する必要があります。つきましては、現時点における統合イメージならびに今後の方向性について、会員の皆様方から広くご意見を頂きたいと思います。今後の体育・スポーツ心理学領域の発展のために会員の皆様方のご協力を頂ければ幸いです。

体育心理学専門領域・日本スポーツ心理学会統合検討ワーキンググループメンバー

体育心理学専門領域会長 阿江美恵子

日本スポーツ心理学会会長 荒木雅信

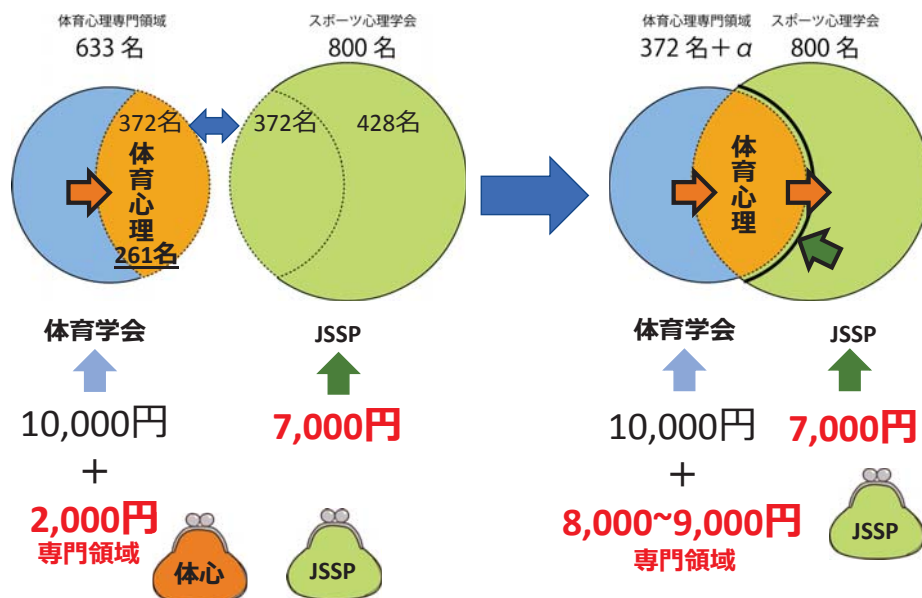
体育心理学専門領域理事長 工藤和俊

日本スポーツ心理学会理事長 山本裕二

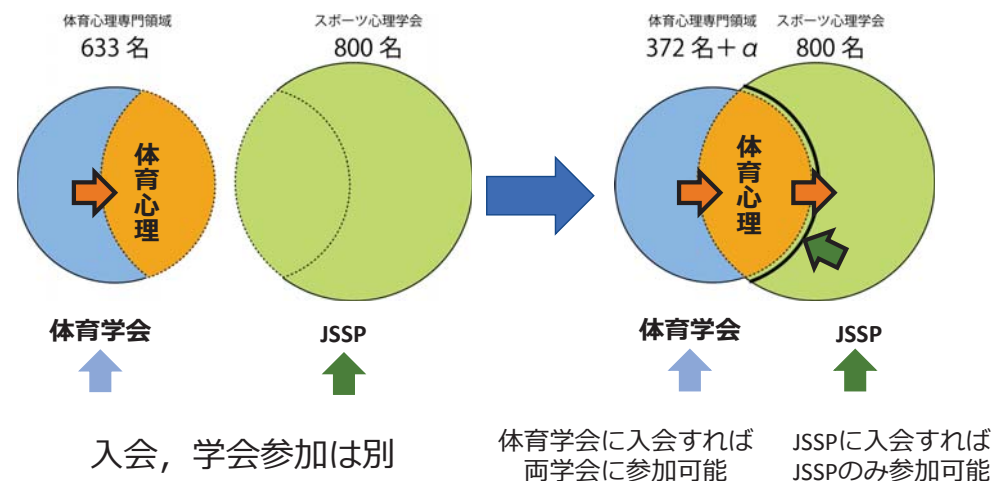
体育心理学専門領域理事 佐々木万丈

日本スポーツ心理学会理事 土屋裕睦

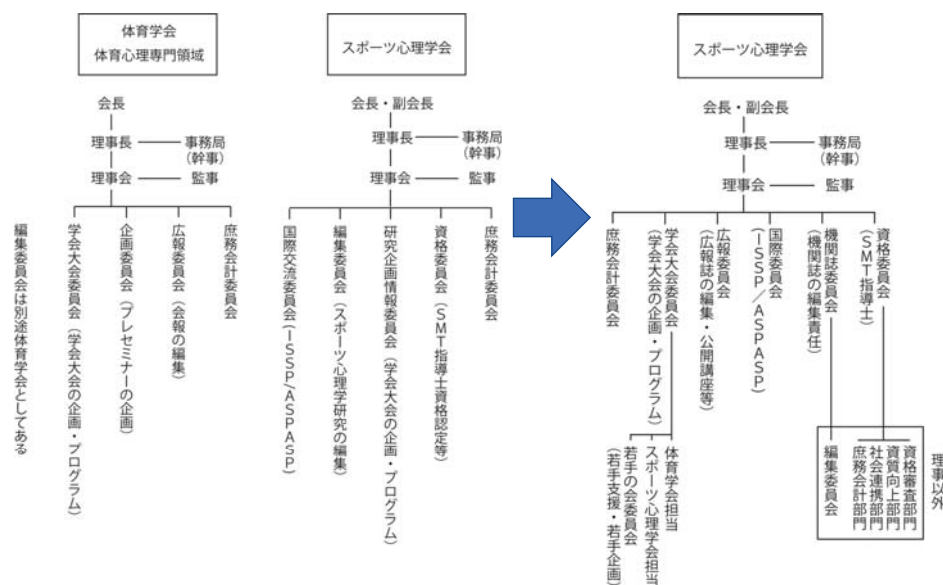
統合したとしたら：入会と会費



統合したとしたら：入会・学会参加



統合したとしたら：組織



統合したとしたら：研究

